

クリントートCEの外張使用時の効果確認

JA新おたる

佐久間 清孝



試験目的

クリントートCEの外張使用時の効果確認

試験作物 及び品種

ミニトマト

試験資材 及び数量(規格)

クリントートCE(0.08mm×800cm×62m) 1枚

慣行資材

ゴリラ(0.1mm×700cm×50m)

栽培方法

播種日	収穫日
5月12日	7月9日
【栽植密度】 畝幅：70cm 株間：50cm	

資材使用期間

5月1日～10月30日

試験区面積

270㎡

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

軽くて展張しやすかった。

試験品は厚さ0.08mmであり、強く引っ張ると手の跡が付きやすいので注意が必要だった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

今年は春先の天気が良く、生育上の差は出なかったが、透明度が高く流通効果も高いため、春先の天候次第では慣行品との違いが出る可能性がある。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：透明度が高く、流通効果も高かった。

【問題点】：厚さ0.1mmと比べると強度が落ちるため、展張時に注意が必要。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

厚さ0.1mmと比べると強度が落ちるため、展張時に注意が必要。

展張後、強風の吹く日があったが特段問題無かったため、展張後の強度については問題ないと思われる。

(5)促成・抑制効果について

流通効果や透明度は高いが、ハウス内のミニトマトの生育に違いは見られなかった。

(6)保温効果について

春先の温度が高めだったため、慣行品と試験品の温度差はあまり感じられなかった。

モニター感想

今回は、0.1mmの慣行品との比較であったが、展張後の強度については0.08mmの試験品でも強度的に問題は無かった。

この地区は、水稻育苗やトマト育苗ハウスに、0.075mmのフィルムを展張する生産者が増えてきており、0.08mmで透明度・流通効果の高いフィルムであれば、価格次第では普及性が高まると思う。

JA担当者の感想(銀山事業所 貞廣 考査役)

高齢化が進む中、被覆資材の軽量化・コスト低減は系統として優先的に検討していかなければならない。

この資材は、今後強度等の問題点の改善も検討しながら、生産者へ広く推進していきたい。

今後の使用について

クリントートCEは継続して使用したい。

厚さ0.08mmと薄手のため、引っ張ると白くなり、破けやすいのはやむを得ないが、厚さ0.1mmのフィルムと同程度の強度があると更に良いと思う。

展張後の強度は問題ないと思うので、今後も使用したい。